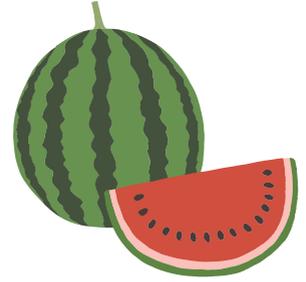


家庭菜園相談室

今月の
テーマ

日本の夏の風物詩～スイカ～



スイカを作りたいけど場所がない…なんとなく栽培が難しそう…というイメージもあるかもしれませんが、スイカの栽培は意外に簡単なんです。開花から収穫までの期間が短く、初心者でも栽培しやすい小玉スイカの地這い栽培に挑戦してみましょう。

図1 作型目安

	4月	5月	6月	7月	8月
小玉スイカ	●	●	▲	▲	■

● 定植(ホットキャップ) - - - - - 整枝・敷きわら = = = = = 人工授粉 ▲ 追肥 ■ 収穫

栽培の
ポイント

- スイカは、高い気温と強い光を好みますので、畑は日当たりが良く、水はけが良いことが条件です。
- 元肥(特に窒素成分)が多いとツルぼけし、着果が悪くなるので、緩効性のものを控えめに施肥します。
- 開花したら、朝の9時までに人工授粉を行い結実を確実にしましょう。

畑の準備

植え付けの2週間前に苦土石灰100g/m²を施し、深さ30cm位までよく耕します。
植え付けの1週間前には堆肥2kg/m²と化成肥料(N:P:K=8:8:8)50g/m²を施し、よく耕します。
畝幅2.5m、高さ15cm程の畝を立てます。水はけの悪い畑ではさらに高めにします。
植え付け前にマルチをしておくと、植え付け後の温度を保つのに有効です。

苗の準備

スイカの苗は、低温伸張性や土壌伝染性病害(つる割病)への抵抗性を強めるため、接ぎ木栽培が一般的です。接ぎ木は難しいため、ホームセンターなどで接ぎ木苗の購入をおすすめします。

植え付け

植え付け前日に、畝に1mおきに植え穴を掘り、たっぷり水をかけておきます。本葉4~5枚の接ぎ木苗をポットから根鉢を崩さないように丁寧に抜き取り、先に掘っておいた穴に植え付け、根元に軽く水をかけます。接ぎ木苗は、接いだ部分が土に埋まらないように注意します。台木のカボチャやユウガオのツル・葉が伸びてきたら摘み取ります。植え付け後は、ホットキャップを被せ、暖かくなってきたら、上部に穴を開け高温にならないよう注意します。

図2 小玉スイカの整枝

敷きわら

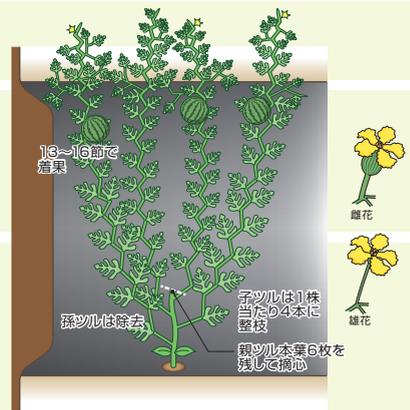
葉が茂ってきたら、株元からツルが伸びる方向に敷きわらをします。ツルがワラに巻きひげを絡ませて伸長するので、地表に固定されて風にも強くなります。

整枝

植え付け後、苗が活着したら、親ツルは本葉5~6枚で摘心します。
第1節の子ツルは摘除し、他の子ツルを4本伸ばします。孫ツルはすべて元から切り取ります。ツルの整枝が遅れると、次々にツルが出て分からなくなるので適時行いましょう。[図2]

人工授粉

最初の雌花は6~8節につきますが、この雌花は授粉せずに、その後の13~16節の雌花から授粉させます。雌花が開花する朝8~9時頃までに、雄花を摘み取り、花弁を取り去り雌花の柱頭に転がすように花粉をつけ、人工授粉させます。
授粉が終わったら、日付けを書いたラベルを付けておくと、収穫の目安になります。また、実の下にワラを敷いておくことで、病害虫の予防になります。



追肥

実の大きさがこぶし大になったら、化成肥料(N:P:K=8-8-8)を20~40g/m²程度を、根元から50cm~1m離して施します。

病害虫

苗を植え付けた直後からウリハムシが葉を食害し始めるので、ホットキャップやアンドンをかけて防ぎます。また、葉ネギなどのコンバニオンプランツと一緒に植えるとつる割病の発生を抑える効果があります。カラスの被害は、ネット等のトンネルで防除しましょう。

収穫

開花後35~40日位で収穫できます。この頃になると果実の付いている節から出た巻きひげが枯れてきます。大玉スイカと同じように、叩くと鈍い音がしたら収穫適期となります。

その他、家庭菜園に関する相談は、JAの支店または営農経済センターまでご連絡ください。